

## 令和7年度第2回岐阜県先端科学技術体験センター 指定管理評価員会議議事要旨

○日時：令和8年1月30日（金） 10：30～12：00

○場所：岐阜県先端科学技術体験センター会議室

○議題：令和8年度の事業計画について

○出席者：

### 【評価員】 [定数：4名]

岡田 優子（御嵩町立伏見小学校 校長）

高橋 信一（岐阜協立大学 経営学部 教授）

三宅 崇（岐阜大学 教育学部 教授）

宮地 江里奈（瑞浪市PTA連合会 瑞浪市立土岐小学校 PTA家庭教育部 部長）

### 【指定管理者】 [トータルメディア中電クラビス科学サービス]

加藤 譲（(株)トータルメディア開発研究所 PPP・共創事業本部 PPP推進第1部 副部長）

森井 映美子（(株)トータルメディア開発研究所 PPP・共創事業本部 PPP推進第1部  
チーフディレクター）

五ヶ山 淳（中電クラビス(株) 展示館サービス部 部長）

水谷 幸次（中電クラビス(株) 展示館サービス部 副長）

桜井 正之（岐阜県先端科学技術体験センター 館長）

安江 進（岐阜県先端科学技術体験センター 副館長兼総務課長）

田代 学（岐阜県先端科学技術体験センター 教育普及課長）

和田 沙欧里（岐阜県先端科学技術体験センター 利用促進課長）

### 【事務局】 [岐阜県観光文化スポーツ部文化伝承課]

市岡 美咲（文化伝承課長）

清水 信博（文化伝承課 教育文化係長）

三輪 佳奈瑛（文化伝承課 教育文化係主任）

○議事概要

### 【質疑応答】

高橋評価員：電子レンジで蛍光灯やネオン管を光らせるショーについて、蛍光灯ではなくLEDでも同じようにできないか。

田中開発担当：LEDは仕組みが違うため光らない。

（指定管理者）

高橋評価員：なくなりつつある商品を使用するより、今生活で使用されている商品に応用されているような仕組みで出来るだけ紹介できると良い。

サイエンスショーからサイエンスライブへの名称変更について、「ライブ」という言葉があまり相応しくないように感じる。生演奏等、録画・録音しているものを使用していないということを強調するとき使用する言葉のため、臨場感のある実験を体験させたいというニュアンスなら「リアル」の方が相応しいのでは。利用者の受け取り方によってはかえって分かりにくくなる可能性があり、ライブという言葉で表現する必要性があまりないように感じる。

岡田評価員：サイエンスショーは子供にはなじみがある。サイエンスシアターというと映像だけのようイメージになってしまう。ステージ形式のダイナミックなショーと事業計画書案に記載してあるため、単純にショーという言葉の方が子供たちは分かりやすいのではと思うが、変更するのであれば、従来のような映像も、ショーもあるという説明があると良い。

スペシャルワークショップは分かり辛いと感じていたの、目の前で感じる事ができるという点で、サイエンスライブという名称の方が子供たちには分かりやすいと思う。

三宅評価員：第4期の活動方針として、「原点回帰と進化」とあるが、何を意味しているのかよく分からない。

安江副館長：第3期の活動方針が「いつでもどこでもサイエンスワールド」ということで、コロナ最中でオンラインに非常に力を入れた時期。コロナも落ち着いてきてオンラインも身近になったところで、原点であるリアルな体験をしていただきたい。オンラインで養った知識を活かしつつ、さらにリアルな体験というところで、当館に来て触って体験いただく。当館へきていただくことが一番だと考えているためそういった意味での原点回帰。

高橋評価員：オリヒメについて、子供たちにロボットに興味を持ってもらう目的で活用するのは良いと思うが、予算的には問題ないか。購入又はレンタル、予定台数、利用料等具体的な計画があれば教えてほしい。

森井(指定管理者)：指定管理料ではなく弊社の方で購入をして当館で使用していきたいと考えている。持ち込みの備品として活用していく予定。費用は一台当たり100万程かかる。購入予定数は2台を想定している。

三宅評価員：トータルメディアは、指定管理者として全国で類似の施設の運営を行っているが、別施設でのアイデアが当館に反映されたり、また逆にサイエンスワールドの面白いアイデア等があれば別施設に反映されるということはあるか。

加藤副部長：全国の施設での知見等の共有は積極的に進めている。サイエンスワールドでは今回オリヒメを活用した新しい科学コミュニケーションショーを開発しているが、全国の施設科学館に展開できるものがあれば行っていきたい。また他の館でもAIの活用等、開発と試行が進んでいるため、サイエンスワールドの方で活用できるものがあればどんどん活用していきたい。

## 【講評】

岡田評価員：当館ができた当時からずっと関わらせていただいている。年々アップデートをされており、先ほどのプログラム開発もそうだが熱心に研究されて工夫を重ねていただいているおかげだと思い感謝申し上げます。

運営の基本方針にも学校対応と一般対応の二本柱でということで、学校が利用しやすい工夫や理科の授業に活かしやすい工夫をしていただいているありがたい。理科にあまり興味のない子にも科学に触れる機会を与え、それがきっかけになっ

て科学に興味を持つなど、そういう点を考えると学校としてもどんどん利用したいし、出張ワークショップも増やしてほしい。今 50 校くらい利用されているということで、他にも行きたい学校もあると思うのでできるだけ沢山受け入れていただけると大変ありがたい。

教員のための研修も実施していただいている。今教員不足で、理科の先生が理科の授業をやるとは限らず、一般の理科の免許を持っていない先生が理科の授業を行わないといけない現状であるため、一般の先生も理科の授業で活かせるような研修があると良い。そのような研修等を開いていただいたら他の先生も研修を受けるのではないかと思います。ぜひそういった研修を増やしていただきたい。

第 3 期で動画及びコンテンツを工夫されたという話で、現場の教員は実験器具が揃えられなかったり、実際に生徒に見せてあげたいがその術がなかったりする。臨場感がある実験を目の前で見せてもらえたら理解度も深まるし、そのような実験を出張や動画で見させていただいたり、実験器具等を貸し出していただいで子供たちに実験させるということも募集していただけると現場はとてもありがたいので、是非ご検討ください。

宮地評価員：電子レンジを利用した実験が面白く、子供たちも実際来たらすごく楽しいと思う。小学校低学年くらいしかサイエンスワールドには来ないかと思ったが、大人でも楽しかったので中高生の子が来館してもとても良いのではと思った。小学校では親子ふれあい体験を毎年行っており、何をするかいつも悩むが、出張ワークショップ等が行われていることを知ることができたので、これから利用させていただきたい。

高橋評価員：毎年非常に工夫されていて、留まっていないという所が評価できる。ワークショップの中身や進め方など工夫しながら入館者を増やすための努力をしている点が非常に評価できる。その成果も少しずつ現れてきて、今年度中に新型コロナ前に近づくところまでいくので、来年度はいよいよ追い越せるのではないかという見通しが出てきて非常に期待したい。さらに頑張ってください、新型コロナ前の入館者数に戻るようによろしくお願ひしたい。

三宅評価員：令和 8 年度事業計画案のサイエンスコミュニティ構想の中で、学校との関係について高校も追記した方が良いのでは。新しい試みとして分身ロボットの話があり、話を聞くだけでは何がどうすごいのか分からなかったが、導入後映像か何かあると思うので、期待したい。

毎年入館者数とか数字を出されているが、数字は分かりやすい目標ではあるが学校の統合による減少等で右肩上がりは難しいと思う。内容の方は毎回すごく工夫されており、今回の電子レンジでの実験は完成度が高いと感じた。一個一個の現象は確かに考えればそうだなという所はあるが、それが連続されて、それぞれに裏打ちされる話があったり、あるいは身近なもので何が関係しているかであったり、50 分でやるにはすごく完成度が高い。館長がスタッフが宝だと話していたが、本当にそれはそうだなと思う。そういう点からみても、ただ単に面白いものを見せるのではなく作り込まれているのを感じたので大変良いと思う。